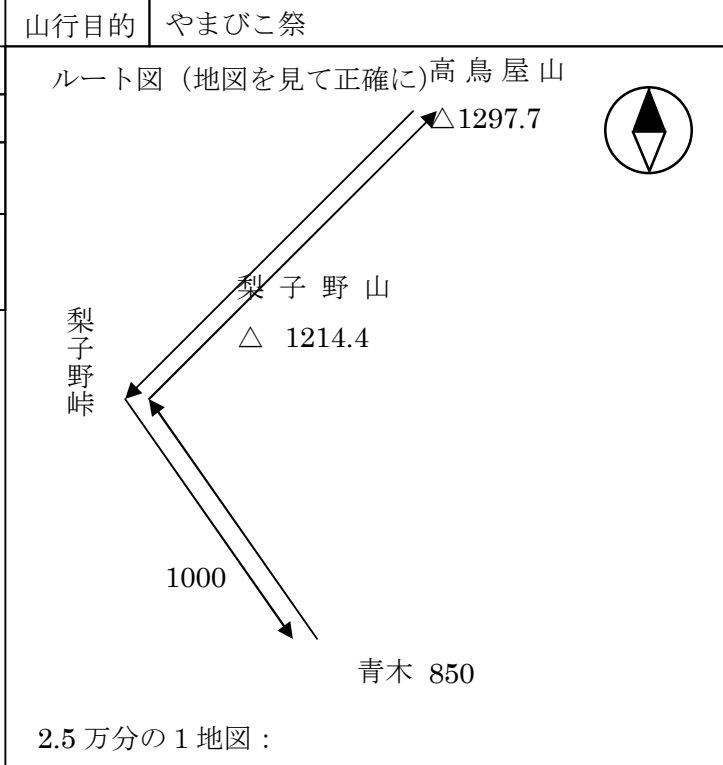


5 月度 <b>例会</b> 個人 山行報告書		報告者	小久保 (聡)	参加 メンバー	CL: 天野 SL: 藤田 (健) 不破・岩崎・川中・小久保 (聡)
		報告日	6/9		
山 域	恵那山周辺	山行日	2009 年 5 月 30 日 (土)		
山 名	高鳥屋山				
山行目的	やまびこ祭	コースタイム (天候: 天気図記号)			

配布先  
集会:12  
山行: 1  
リーダー  
原紙:集会  
担当者



5/30 曇り時々小雨  
9:20 登山口着  
9:30 登山口出発  
10:10 看板 (一本)  
10:50 梨子野峠付近  
11:10 松沢分岐  
(一本)  
11:45 山頂着  
12:15 山頂出発  
13:15 看板 (一本)  
13:55 登山口着

【写真説明】  
右: ミニ三脚をセットする不破先輩  
右下: 山頂からの景色



〈山行報告〉 登山口への道がわかりづらく、地元民に尋ねながら細道を上ってようやく到着 (青木地区)。地震観測所みたいな小屋の横からいざ入山! 緩やかなカーブを描く登山道を小さなお地藏さん達が見守っている。いや〜心地いいですなア〜! と油断しておいた筆者ですが、その 10 分後には「きゅ、休憩させて下さい〜」と言いたいのを必死に堪えていた。ベテランの方々にはどうかわからないが、初心者には結構な急登が続く。先頭の藤田さんが立ち止まる度、「おっ、休憩か?!」と期待を抱くも、毎回裏切られた (笑) 出発から 40 分後、分岐点にやってきた。板にペンで手書きされただけの簡単な看板が立っている。しかも字が滲んでいて解読不可能。「よし! ここで一本!」その瞬間「紛らわしい看板、ナイス!!!」と思った私。このあたりから私たち一行にハエが集り始める。先輩方が二手に分かれてルートを見に行ってくださいたり、地図を見たりした結果、そのまま直進するルートが選択された。少し休憩したので心も体も軽くなった。途中、道の傍らに咲く幽霊草 (半透明でイカ刺しのような外観) がおいしそう。最初の休憩から約 30 分後、梨子野峠付近を通過、その後は時折笹をかき分けて進むことになる。「高鳥屋まで 1.3 キロ」の看板がある所で一本。ふと天野さんを見ると、ものすごいハエに囲まれている。「男のフェロモンを出しているから」という理由らしいが、そう言いつつも自らハエの餌食になるリーダー魂に頭が下がる。休憩後、ハエ以外は特に問題なく歩みを進める。「なんか順調だなあ! 誰かハプニング起こせ〜!」「川中さん、お願いします!」と余裕の会話をしていたその数分後・・・彼女はやってくれた! 上方より「ジジジジ・・・」と異音がしたので見上げると、直径 10cm 長さ 1.5m ほどの枝がぶら下がっている、と思った瞬間、その枝が川中さん目掛けて落下! 「アイタ〜!」「大丈夫か!!!」どうやら頭と肩に当たったらしい。ここでもまた、自らを犠牲にしてネタを作った川中さんに手を合わせた。その後間もなく山頂到着。オレンジ色のヤマツツジと水色の山小屋が出迎えてくれた。遠くには市街地も見える。屋食を食べたり写真を撮ったりするも、とにかくハエが多くて長居はできない。下山時、小雨に降られるが雨具を着る程でもなく、1 時間 40 分ほどで登山口までおりに来た。帰りは湯ったり〜な屋神で入浴し、日帰り組の天野 CL・藤田 SL・ダンディ岩崎さんとお別れ。その後、不破さん念願の五平餅を食べてから、あかまんまロッジに向かった。「脚がすごく疲れました」と言う私に不破さんが言った。「それは幸せな疲れだよ。」そうか、これって幸せなことなんだ。歩けない人もいるもんな・・・。大先輩がさらっと口にする言葉には奥深い意味があると知った 1 日だった。

〈リーダー所見〉 登り出しのペースが新人 2 人には少し早めかなと思ったが、黙々と登っていたため、普段からトレーニングをしている結果が出て「よしよし」と心の中で頷いていた。報告文のような状況を把握できずにいたが、よく着いてこれでトレーニングになったと思う。川中さんのアクシデントには驚いたが、「五感を働かせ危険予知をしていかなければ」と改めて思う。初めての CL で少し緊張していたが、メンバーに助けられ良い山行となりました。



確認 (リーダー)  
天  
09/06/10  
野  
作成 (初筆者)  
小久保  
09/06/09  
(聡)